# 校内研だより（２０２３．７）

【中学年ブロック：３年２組（〇〇総括教諭）「まいごのかぎ」研究協議のまとめ】

〇考える必然性

・まずは導入で、全員を同じ土俵にあげる　　→前時の振り返りから、学習問題や課題へとつなげる

〇考えの根拠の明確化、考えの共有化、自覚化

・思考の拠り所となる板書　　→児童の言葉を使って考えを焦点化していく　・視覚的な手立て

〇教師の関わり

・グループで話し合う経験の積み重ね、肯定的に仲間を受け入れる日々の指導

・多様な意見を集約する見通し

【次回につなげたいこと】

① 子どもの「なぜ」を大切にした学習問題や課題づくり（単元づくり）

② 思考の拠り所となる板書（本時）

③ 聴く雰囲気づくり（日々の学級経営）

## 第３回　校内研究全体会（２０２３．７．１３　指導助言…〇〇先生による理論研究）

「学び合い、高め合う」→「相手と関わり合いを大切にする中で、お互いに自他を認めていく姿」

〇ハーバード大学のマズール先生の話（アクティブラーニング）

【どのように上達したのか？】
体験→８０％
説明させる→９０％

→

知識を活用　→　自立した学び
High-supportから最終的にLow-supportへ

個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実

「他者と協働することが良い」と子どもたちにどう感じさせていくか。

〇授業づくりについて　（「まいごのかぎ」より）

・豊かな単元の導入には、子どもが主体的に取り組むために、一人ひとりがどう考えるのかを実生活から入って実生活に戻していくことが重要。子どもたちの実体験を超えたところに子どもの興味は沸かない。

・導入とゴール。校内研資料では感想文をゴールとしているように、ゴールの形式を明確にする。

・感想、紹介、推薦、意見などの言葉にこだわることで、次の活動につながる。

〇児童同士の関わり（主体的・対話的に学び合う子どもの姿）

・説明する力をつける　→　子ども同士が話し合い、説明しあって課題に取り組む。

・一人ひとりが自分の考えや気づきを発表する中で、授業の課題を発見することから始まる。

・子どもが黒板に図を書きながら説明など、発表する子が聞く子の様子を確認する。

・わかるところまで、自分で説明に挑戦。「ここから助けてください」

・「例えば」などを使ってわかりやすい説明を意識している。

・低学年の子が高学年の授業の様子を見に来ている。

〇協働力を高める振り返り

「自分たちの考え以外を聞けたことが面白かった。」

「図を使って説明してくれたからわかりやすかった。」

・子どもが何を感じているのかを聞くのが、楽しい。

・子どもたちの本物の声を聞くことにチャレンジしてほしい。

・経験を積んだ上で子どもが考え、決めていく。

【本当の”TEAM”とは】

Talent：一人ひとりが才能を活かし、その才能に磨きをかけるように努力する

Encouagement：互いを尊重し合い、さらに切磋琢磨するよう励まし合う

Acknowledgement：互いに認め合い、共通の目標を持つ

Move：それを確認しながら、更にチーム一丸となって前進していく

下中小の一人ひとりが力を合わせて

※　別紙「感想の言葉集」を見てね。（今では入手困難な貴重な資料だそうです）